

インターバンクの声（2017 年 2 月 21 日）

週明けの外国為替市場の円相場は、ロンドン市場が始まってからも 113 円台前半での膠着状態が続き、相場が大きく変動しそうな気配は全くなかった。

仏大統領選の世論調査で、国民戦線のルペン党首が中道・無党派のマクロン前経済相との差を詰めているとのニュースにもユーロの反応は弱く、英上院が EU 離脱交渉に向けた法案の審議を開始したことが伝わった直後に若干上昇したボンドも、その後は動きが止まってしまった。

いつもならロンドン市場の午後から始まるニューヨーク市場が、プレジデント・デーのため休場とあって、市場が閑散状態になってしまうのも仕方なかったが、こうした市場の隙について一部の市場参加者が相場を動かしてくる場合もあるので、油断は禁物だ。

もっとも日本時間の午前 3 時を過ぎればそうしたリスクもほとんどなくなる。今日の東京市場も 9 時半に豪中央銀行 (RBA) が 2/7 に開いた理事会議事録の発表があるくらいで、ロンドン勢が参入する頃まで大きな変化は期待し難いかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。